

# 県立水戸商業高等学校自己評価表

目指す学校像	文武両道の精神を重んじ、知・徳・体の調和のとれた教育を実践し、情操豊かで創造性に富み、地域社会やビジネス界が求める幅広い知識と技術を備えた人間性豊かな人材を育成する学校				
昨年度の成果と課題		重点項目	重点目標	達成状況	
<p>学習指導、部活動、学校行事等に多くの生徒が積極的に参加することで知・徳・体の調和のとれた、人間性豊かな生徒を育てることができた。</p> <p>主な資格の取得では、日商簿記検定2級合格者が52名、全商検定1級3種目以上合格者が205名であった。</p> <p>進路指導では公務員試験17名の合格等、就職、進学においても成果を上げることができた。しかし、生徒の学びが受動的であり、主体的に授業に参加する学びになっていない。生徒参加型授業を積極的に取り入れ、批評・論述・討論などの学習活動を充実させる必要がある。</p> <p>開かれた学校づくりの推進として学校の情報をホームページ等で発信してきたが、十分な成果が得られなかった。今後は、生徒、保護者、地域の声を受け止め、連携・協力しながら推進していきたい。</p>	1	豊かな心を育む教育の推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自主性の育成</li> <li>・他者との協働</li> <li>・挨拶（心を開いて 心に迫る）</li> </ul>	A	
	2	確かな学力の育成と専門性の深化	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自ら計画を立て学習する習慣の確立</li> <li>・各学科に応じた専門的な知識・技能の習得及び資格取得</li> <li>・基礎学力の定着・向上及び主体的な進路選択</li> </ul>	B	
	3	社会の変化に対応した人材の育成	<ul style="list-style-type: none"> <li>・情報科、グローバル化に対応した教育の充実</li> <li>・キャリア教育の充実（デュアル、インターンシップなど）</li> </ul>	B	
	4	特別活動、部活動の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校行事運営への生徒参画</li> <li>・ホームルーム活動、生徒会活動の充実</li> <li>・部活動の充実（強くて愛される部活動）</li> </ul>	A	
	5	開かれた学校づくりの推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校ホームページによる情報発信及び広報活動の充実</li> <li>・地域貢献活動の推進（ボランティアなど）</li> </ul>	B	
	6	働き方改革の推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>・校務分掌の再構成</li> <li>・会議削減の工夫</li> <li>・ICT教育の充実</li> </ul>	A	
評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	次年度（学期）への主な課題	
教科指導	学力意欲の喚起	自ら計画を立て学習する習慣を確立させ、基礎学力の定着を図る。	B	B	家庭学習の定着
		習熟別、課題解決型等の学習形態を取り入れた授業を展開する。	B		P D C Aサイクルを取り入れた授業改善
	成績不振者対策	小テストやレポート等で学びの振り返りを行い、理解度を常に確認する。	A		デジタル教材等の活用
		学年、教科任せにせず、学校全体で指導にあたる。	A		明確な指導計画づくり
	進学対策	3年間を見据えた計画的な進路指導を実践する。	B		学習到達目標の設定
		一般入試及び大学進学後に困らない学力を身に付けさせる。	B		探究的思考力の育成

	学習に対する達成感をもたせる	全商検定試験1級の合格者数を増やす。(3種目以上1級合格者235名以上) 日商簿記検定2級の合格者を増やす。(80名以上)	B		地域社会で活躍できる人材の育成
	心の教育の推進	心の教育を充実させ、自分自身や未来を見つめ、将来への夢(進路実現)を育む。	B		探究活動を取り入れた教育の推進
進路指導	能力・適性に応じた進路指導の充実	インターンシップや企業見学等の実施により、早期に職業観及び勤労観を育成する。	A	A	キャリア教育の充実
		学年に応じた適性検査を実施し自己理解を図る。			事故の適性を考える
	進路意識の高揚	進路講演会や進路指導集会、大学見学等を実施して、早期に進路目標を設定し目標に向け努力する。	B		より具体的な進路意識
		進学か就職かを1年次に80%以上、2年次に90%以上の生徒が決めるようにする。			外部講師等の活用
		四大・短大・公務員・高看等の3年次の模試参加率を高める。(100%)			小論文対策の充実
	情報提供の拡大	課題を定期的に出すことにより、自宅等での学習時間を増やす。	A		課題提供の工夫
		進学・就職に関する情報を適宜提供し、進路決定に役立てる。			タイムリーな情報提供
		進学・就職の現役合格率は95%以上を目指す。			合格率100%の実現
個別面接を重視した意欲の高揚	積極的な会社訪問・求人開拓を行うとともに、生徒自らも情報収集を行う。	A	新規求人開拓の継続		
	できるだけ早期に就職・進学希望者全員と個別面談し、希望状況を把握する。その後も適宜、面接や相談を実施し、生徒一人一人のニーズに応える。		個別面談の実施により生徒理解を深める		
生徒指導	基本的な生活習慣の確立	毎月全職員による登校指導を実施、生徒の現状把握・職員間の共通理解をすすめることで、適切なアドバイスの実現を目指し、基本的な生活習慣の確立を図る。	A	B	教職員の共通理解と向上を図るための取組の推進
		友人や教職員と元気に挨拶を交わしコミュニケーションをとる習慣を身に付けさせ、連帯感を高め相互理解を深め、生徒一人一人にとっての高校生活の質や価値を高める。	B		挨拶による効果的なコミュニケーションの構築
	盗難事故等の防止	毎日校内巡視指導を実施し、貴重品の自己管理・教室移動時の戸締まり等を徹底させ、盗難事故の未然防止を図る。	A		盗難防止に対する意識の向上
		年2回の自転車点検及び毎月1週間の駐輪場巡視を実施し、駐輪マナーの向上・自転車盗難事故防止を図る。	A		駐輪マナーの向上と施錠の徹底
	服装指導の徹底	日常的な指導に加え、毎月1回全校一斉の服装指導を通して、スカート丈、ズボン裾、ネクタイ、校章、学年章、台座等の正しい装着について指導し、制服の着こなし等のマナーアップを図る。	B		服装マナーを通じたビジネスマナーの習得
	交通ルールの遵守と事故防止	毎月登下校時の校外巡視指導を実施し、交通ルールの遵守とマナーアップを徹底するとともに交通事故等の未然防止を図る。	B		交通マナーアップと交通事故防止意識高揚の推進
特別活動	生徒会活動の活性化	生徒が自主的に行動できるよう計画的な運営を図ることで、協力して諸問題を解決しようとする態度を育てる。	A	A	生徒活動の更なる充実。
	ホームルーム活動の充実	ホームルーム活動で「キャリア・パスポート」を活用した授業を実践し、社会的・職業的自立に向けた能力や態度を育てる。	B		より具体的なキャリア教育の計画と実践。

	部活動の活性化	適切な指導・助言に基づく自主的・自立的な活動の育成に努めることによって、部活動をさらに発展させ、その活動を通して自ら思考し、他者と協働する精神を養う。 多くの生徒が部活動に参加することによって、学校全体の活性化につなげる。	A		部活動の更なる充実。部活動の成果の発信。
	学校行事の活性化	クラスマッチ等のスポーツ実践の機会を設け、体力・技術の向上及びスポーツ精神を養い、クラスの団結や親睦を図る。 文化祭等の文化部・ホームルーム・個人の発表の機会を設け、団結して一つのを創り上げたり、芸術的な感性を磨いたりできるようにする。	A		コロナ禍においてもできることの追究と工夫。学校行事の更なる充実。
教務	確かな学力の育成と専門性の深化	自ら計画を立て学習する習慣を確立させ、基礎学力の定着を図る。	B	A	家庭学習の定着
		各学科に応じた専門的な知識・技能の修得及び資格取得。	B		P D C A サイクルを活用した授業改善
	授業時数の確保	出張・年休の際の授業振り替えをする。	A		突然の年休等の対応
		学校行事の日程調整を行い、曜日振替を実施し、授業時間の確保にする。	A		行事の精選と内容の見直し
	教育課程の検討	社会の変化と生徒の多様な進路に対応した教育課程を編成する。			グランドデザインの取り組み
	心の教育の充実	互いに認め合い、励まし合う生徒指導の視点を取り入れた授業づくり・集団づくりを推進する。	B		探究活動を取り入れた道徳の推進
	学校説明会の充実と広報活動の推進	今年度に関しては、ホームページ上に模擬授業や学校行事・部活動紹介等の動画配信や資料の掲示を行い学校説明会の代わりとする。	A		コロナ禍においてW e b での動画配信
		生徒、保護者、地域の声を受け止め、開かれた学校づくりを推進しながら、情報提供を積極的に行なう。			適切な学校公開（時期・時間・方法・対象者）
	奨学金制度の周知徹底	生徒の奨学生募集と事務手続きについて、生徒及び保護者に周知徹底する。	A		学年・担任との連携強化
	教育実習生への指導体制の充実	これからの教育を担う教育実習生のために、指導の体制と指導内容の一層の充実を図る。	A		外部資源としての活用
	校内研修の推進	時機に応じた教員の研修を推進する。	B		推進リーダーの育成
	図書館・視聴覚室の環境整備	図書館・視聴覚室の使いやすさの向上をめざし、環境整備をはかる。	B		生徒が学習しやすい環境づくりの工夫
	図書・視聴覚資料の充実	古くなり活用されない資料の廃棄を進め、図書・視聴覚資料の更新・充実をはかる。	A		資料の廃棄を積極的に行い、資料の更新を目指す
	図書館運営の円滑化	図書委員の活動が、貸出カウンターだけでなく、図書の受け入れや蔵書管理の業務にも参加できるように活動範囲を拡大する。	A		図書の受け入れ業務に生徒が積極的に関わる体制づくり
	広報活動の強化	新入生に向けたオリエンテーション活動を充実させ、新刊案内を含めた広報誌の発行を増やす。	A		新刊案内の定期発行化と広報誌の紙面の充実
学級図書の整備	引きつづき学級文庫の整備をし、クラス・生徒が積極的に活用できる環境を整える。	B	今後の整備の是非を検討		
図書委員会・放送委員会の自主	図書委員の活動内容を見直し、図書館運営の効率化をはかる。	A	生徒の関わる業務の再検討		

	的活動の推進	放送委員の活動を活性化し、視聴覚室の利用促進、校内放送の充実をはかる。	B		活動内容の再検討
渉外	P T A 奨学会総会と P T A の充実	P T A 奨学会総会並びに学年 P T A の望ましい在り方の再検討と、保護者の出席率の向上に努める。	A	A	・書面総会について、次年度への検討
		保護者と学校・地域の連携を図る。	A		継続
	P T A 奨学会の資質の向上並びに広報活動の充実	広報紙の内容を充実させる。	A		・広報誌発行回数の検討
		高 P 連主催の行事等へ積極的に参加する。高 P 連関係情報を会員へ周知する。	A		・役員会の開催方法の検討
	実行委員会、学年 P T A の活性化	本部役員との連携を図る。実行委員会の内容を検討する。	B		継続
学級・学年委員等の情報交換を積極的に行う。		B	継続		
保健環境	健康管理の推進	定期健康診断の実施及びアフターケアにより、生徒の健康管理及び増進を図る。保健委員会活動により生徒の健康管理意識の啓発に努める。また AED 研修を全生徒に実施し、救急法の理解を深めると共に、国内における救命率の向上を目指す。	B	B	心肺蘇生と AED に関わる知識の定着と行動を起こす勇氣
	学校環境の整備と美化の推進	全教職員及び生徒の校内美化活動への共通理解を図り、整備委員会による環境整備活動を推進し、清掃活動を徹底する。	B		生徒会や委員会による主体的な取組の推進
教育相談	カウンセリング体制の充実	生徒が安心・安全に学校生活を送れるように、スクールカウンセラーを中心に生徒の心の安定を図る。	A	A	カウンセラーの有効活用を今後も継続していく。
	教育相談室の充実	コミュニケーション力の不足等で、学校生活が安心して送れなくなる恐れのある生徒に対して、担任や外部機関等と連携し、安心して学校生活を送れるようにする。	B		困難を抱える生徒を担任とともに支えていく。
ネットワーク管理	校内ネットワークの整備	校内ネットワークを整備し、業務の効率化を図る。	A	A	オンライン機能をさらに充実する。個人のオンラインに対する研修を行う。
	校務支援システムの推進	校内における校務支援システムの円滑な導入を図り、職員に周知を促す。	A		応用機能の整備を行い、校務支援システムを十全に使えるようにする。
	ホームページ等による情報の発信	学校ホームページを通して、生徒・保護者・地域へ対し、迅速に的確な情報を発信していく。	A		リアルタイムな情報発信を心掛ける。
教育改革推進	学力向上の推進	教員研修や教員相互の授業参観等、授業力向上のための取組を推進する。	A	A	授業改善を含めた研修機会を増やしたい。
		ICT 教育支援サービスを活用し、主体的に学ぶ支援を行いながら、生徒のモチベーションを引き出し自学自習の力をつけさせる。	A		教育支援サービスの有効活用と自学自習の促進させる。
	探究活動の推進	各教科において課題解決型学習の手法を取り入れ、実社会に通用する資質・能力を育てる。	A		各教科との連携を強化し、実践及び改善を進める。
		探究活動を通じて自らの将来をデザインしていく主体性を育む。	B		進路実現に向けて、主体性を育む指導を継続する。

	国際教育の推進	JICA 等との外部機関との連携による講演会の実施や模擬授業による異文化理解の推進。	B		感染対策を講じたうえでの実施促進
		コミュニケーション活動の拡充、GTEC の活用等による英語力の向上	A		更なる活動の充実
	情報教育の推進	2年情報ビジネス科において、基本情報技術者試験の一部（午前試験）免除制度を本校で導入する。	A		継続して指導できる体制の構築に努める
		Google classroom など茨城県教育情報ネットワークにある機能を活用した授業展開ができるようにする。	A		職員研修を行い利用する職員数を増やせるように努める。
	デュアルシステムの推進	デュアルシステム（企業参加）への参加者を増やす。	B		コロナ禍での実施形態を考える。
		デュアルシステムで実習した企業への就職内定者を増やす。	B		職種の検討をし、希望生徒の実施により務める。
第1学年	基本的な生活習慣の確立とビジネスマナーの育成	落ち着きある教育環境を整備し、規則正しい生活習慣のもと日々の授業を大切にす姿勢の育成を図る。また、ビジネスマナーに基づく身だしなみ・礼法・言葉遣い等の育成を図る。	A	A	コロナ禍が継続する前提で礼法指導等に取り組む。
	進路ガイダンス、個人面談による進路指導の推進	一人一人の能力・適性に応じた進路指導の推進と、将来における望ましい勤労観・職業観の育成を図る。あわせて、人としての在り方・生き方について考えを深めさせる。	B		進路行事等を通じてさらなる自己理解の進展に努める。
	資格取得による専門性の深化	商業に関する基礎知識・技能等の習得を図るとともに、公的検定や資格等の取得を通して専門性の深化を図る。	A		高度な資格の学習を通して、さらなる専門性の深化に努める。
第2学年	基本的な生活習慣の確立	ホームルームや学年集会、授業などを通して、挨拶や言葉遣いなどの礼儀作法やマナーを身につけさせる。	A	B	卒業後の生活を意識し、正しい礼儀作法を習慣化させる。
	資格取得を用いた専門性の深化	商業・英語の資格取得を通して専門性の深化を図る。知識だけでなく、知識・技術を活用する力を身につけさせる。	B		資格取得の意識を持ち、今後も専門性の深化を図る。
	進路選択に向けた意識の高揚	進路ガイダンスなどを通して、職業意識を高揚させる。また、ホームルームや学年集会、面談等を通じて、進路実現に向けた意識の向上を図る。	B		進路について理解を深め、早期の進路実現を図る。
第3学年	進路希望の実現を図る	就職指導：新たな就職先の開拓及び個別面談、模擬試験、模擬面接を効果的に実施する。進学指導：進学課外、個別面談、模擬試験、小論文指導、模擬面接を効果的に実施する。	A	A	全教員の協力を得る。
	上級資格検定を取得させる	上級検定への受検を積極的に進めるとともに、課外や個別指導を実施する。	B		希望進路に応じた課外の実施
	最上級生としての自覚と誇りを持たせる	社会人となるための準備として、自主自立の精神を高め、判断力や実践力の強化・指導をする。	A		変化に対する思考力を高める。
	高校生活の集大成を図る	希望進路の実現はもとより、最終学年として、学校行事等に積極的に参加させ、企画・実践を通して達成感を持たせる。	A		さらなる、自主的な企画・立案・実行
	自宅学習の習慣化	各種の資格取得、また自己の進路を実現させるために、具体的に学習法を考えさせ、実践させる。	B		「ふりかえり」の必要性を再確認する。
国語	文章を的確に理解し、適切に表現する能力を高める	教科書やその他の文献における近代以降の文章を的確に理解・解釈し、自ら考え、表現する力を身につけさせる。 古典を読解するための基礎的な学力と古典作品を楽しむ態度を養う。	A	より思考を深められる授業を計画する。	

	伝え合う力を高めるとともにものの見方、感じ方、考え方を深める表現力を育てる	授業を通して文章を書く機会を持たせ、進路実現に向け自己の考えを表現できるようにする。 発表やスピーチなどで自分の感想や意見を述べるができるようにする。	A	A	生徒の表現を的確に評価し、フィードバックできるようにする。
	言語文化に対する関心を深め、自ら学ぶ態度を育てる	日常生活のなかで、言語文化に対する興味や関心を持たせながら、積極的に学習に取り組めるように工夫する。	B		自ら学びを進められるように工夫する。
	指導法の研究	授業時間の確保に努め、基礎学力の定着を図る。 生徒の進路実現を支援し、生徒の習熟度に応じた効果的な指導法・教材作りをする。	A		生徒の必要に応じた指導内容を検討する。
地歴公民	基礎学力の向上	視聴覚教材やプリントを活用し、より効果的に基礎学力の向上を図る。	A	A	補助教材を活用して思考力を育成し、深い理解につなげる。
	成績不振者対策	成績不振者に対して課題プリントの配布や課外を実施し、学習の動機付けを図る。	A		課題プリントや課外、追試を行い、学習の動機付けを図る。
	進学対策	小論文対策として、新聞を読む機会を設け、社会現象について多面的に考察させる。	B		新聞を読む機会を設け、多面的に考察させ、時事問題を考查に取り入れる。
	学習意欲の向上	学習内容に関連する身近な話題を投げかけたり、視聴覚教材や補助教材の活用を通して社会的事象に対する関心を高める。	A		地域や生徒自身にとって身近な話題を投げかけ、社会現象に関する関心を高める。
理科	科学リテラシーの向上	新聞やニュースなどの身近な情報を活用し、科学現象への関心を高める。	B	B	科目との関連性を考慮
	成績不振者対策	指導法や教材を工夫し、分かりやすい授業の展開に努める。また、理解度の低い生徒には、補習等を行う。	A		不振者に合わせた個別指導
	進路達成に係わる学力の向上	看護・医療系・公務員・就職試験等に必要内容についての補習等を充実させる。	B		幅広い分野に対応する専門性
数学	基礎学力の向上	授業後の課題や学習動画の利用により、基礎学力の向上を図る。	A	B	オンラインでの宿題配信の運用
	成績不振者対策	成績不振者に対し、補講や課題プリントの配布を行い、理解度の向上を図る。	B		課外・補講の時間設定が難しい
	進路指導対策	進路に合わせて数学Aの授業を選択させるとともに、受験や進学に必要な内容の補講を行う。	B		進路に合わせて数学Aを、選択できているか
体育	運動技能を高める	生徒一人一人の能力に応じて、運動に興味をもたせる。 運動技能を習得したり、高めたりする喜びを味わう。	A	A	選択制授業の有効利用
	体力の向上を図る	体育理論と関連させながら、体力の重要性を認識させ、体力を高めるための運動を身につけさせる。	B		全体の体力強化（コロナ禍による影響）
	公正、協力、責任などの態度を育てる	各種の運動の合理的な実践を通して、運動をする態度の育成を目指す。 服装を整え、安全を考慮して公正で責任ある態度を身につけさせる。	B		安全指導の徹底と服装（ジャージ忘れ）指導を図る
	生涯にわたる豊かなスポーツライフの実現を目指す	運動の習慣化を目指しながら、運動の楽しさや喜びを深く味わわせる。 新指導要領に沿った生涯体育の推進を図る。	A		新指導要領に向けた授業選択の推進を行う

保健	健康の保持増進のための実践力の育成	健康・安全についての総合的な理解を通して、人間としてのあり方や、生き方、科学的な思考と正しい判断に基づく意思決定や行動選択ができるようにする。	A		教科書の他に副教材などの有効活用
	明るく豊かで活力ある生活を営む態度やたくましい心身を育てる	生涯を通じて、自らの心とからだの健康を適切に自己管理し、改善していく資質や能力を育てる。	A		体育授業とのリンク性の追求
英語	単語、熟語、発音、アクセントを習得させる	各学年週1回単語テストを実施したり、単語練習を用紙に書かせて課題にして提出させたりして語彙力を高める。 文字からだけでなく、CDからの音声によって発音やアクセントを確認させる。	A	A	語彙力のさらなる向上。 テスト平均点および課題提出率の向上。
	コミュニケーション能力を高める	全ての授業において、音読をさせたりペアワークに取り組みせたりすることで、自分の身の周りのことを英語で表現できるようにし、英語表現の楽しさを理解させる。	A		より多くの生徒が積極的に活動に参加するよう工夫する。
	読解力を高める	教科書や英字新聞、英語検定等の問題集を使用してできるだけ速く、多量にそして正確に読めるように訓練する。内容を深く吟味して英文読解の楽しさを理解させる。	B		教科書以外の教材をどのように活用するか考える。
	評価法の確立	定期考査の点数以外に、平常点を積極的に用い、四技能の観点から総合的に評価する。特に英語会話においては、定期考査のみならずインタビューテストの結果やコミュニケーションを積極的に取るうとする態度を重視し、筆記テストだけによらない評価方法の確立を図る。	A		ペーパーテストの得点以外の評価方法の工夫・確立
	自宅学習の習慣	ワークブック等の副教材を活用し、新出単語・語句を調べさせたり、プリントで教科書の基本事項を確実に押さえさせたりするなどして家庭学習の定着を図る。	B		生徒に提出させることにより定着度を確認する。
芸術	芸術を愛好する心情を育てる	音楽・美術の基礎的な能力や態度を育てる。 様々な表現方法を体験させ、自分の考えを表現する力を育む。	A	A	自分の考えをより具体的に作品に表現できるよう支援する
	個性豊かな表現の能力を高める	生徒一人一人の特性を考慮した指導を工夫する。	A		生徒の実態や場面に応じた指導を工夫する
	芸術文化についての理解を深める	様々な作品を鑑賞し、表現の意図や作者の個性などについて考えさせ、鑑賞の能力を高める。	B		生活や社会の中の芸術文化と豊かに関わる能力を育む
家庭	人の一生と家族・福祉、衣食住、消費生活に関する知識と技術を習得させ、家庭生活の充実・向上を図る能力を育成し、生きる力を育てる	教科書・資料・ノート等で家庭生活のあり方などについて理解させるとともに考えさせ、男女が協力して家庭を築くことができる実践的態度を身につけさせる。	A	A	アクティブラーニング等の授業研究
		調理実習を通して、食生活に必要な基礎的な知識・技術を習得させ、快適な生活を営むことができる力を育てる。	A		調理実習における基礎的な技術習得の工夫
		被服実習を通して、衣生活に必要な基礎的な知識・技術を習得させ、快適な生活を営むことができる力を育てる。	B		作品の評価・展示の工夫
		DVD等の情報機器を利用して、最新の情報を活かし学習効果を高める。	A		最新情報の研修
商業	基礎学力の向上ならびに職業倫理の向上を図る	1年次に商業の基礎・基本を身につけさせるとともに2・3年次をとおしてビジネスマナーや職業倫理観の向上を図る。情報機器を効果的に活用し、コミュニケーション力を高める授業の工夫改善に努める。	A		ICT教育とアクティブラーニング型授業を組み合わせ、より実施できるよう改善と工夫を促進したい。

	成績不振者への対策	学習の理解度の低い生徒を早期に発見し、補習等の対応を行い、学習意欲の向上と知識の定着を図る。段階的な学習課題を提出させ、添削指導等を行う。	B	A	課外や特別時間割で習熟度別学習の検討をしたい。
	上級資格取得を用いた専門性の深化と社会への対応	<p>商業科：全商簿記検定1級・全商商業経済検定1級・全商情報処理検定試験（ビジネス情報部門）1級・全商珠算電卓検定1級・日商簿記2級等の取得を目指す。</p> <p>情報ビジネス科：全商情報処理検定（プログラミング部門、ビジネス情報部門）1級・全商簿記検定1級・情報処理技術者試験・日商簿記2級等の取得を目指す。</p> <p>国際ビジネス科：全商英語検定1級・全商簿記検定1級・STEP英検・日商簿記2級等の取得を目指す。</p> <p>身につけた会計活用能力・情報活用能力・英語活用能力をビジネス界の発展に活用できるように育成する。</p>	A		<p>身につけた会計活用能力・情報活用能力・英語活用能力を使い、実社会の問題等を参考にしながら分析力をさらに育みたい。</p> <p>今年度より始めた、情報処理技術者試験午前免除制度試験の指導の工夫を検討したい。</p>
	職業意識の向上と地域社会との共生	地域社会や産業界との連携と協力により、2年生に就業体験（インターシップ）を実施する。また、チャレンジ・プロジェクト事業で、水戸商版デュアルシステムを行い、生徒の職業観や勤労観の育成と地域への参加を実践することで、社会に開かれた学校づくりを目指す。	A		就業体験の新しい形を提案したい。「商品開発」授業で地域の企業と連携がとれたが、さらに連携企業を増やしたい。

※ 評価規準：A（十分にできた）・B（普通）・C（不十分である）